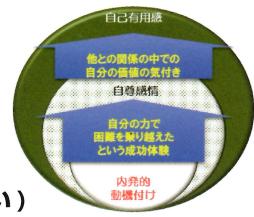
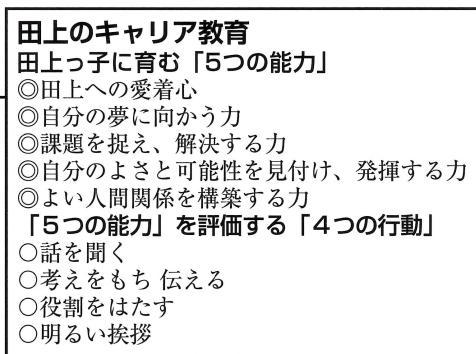
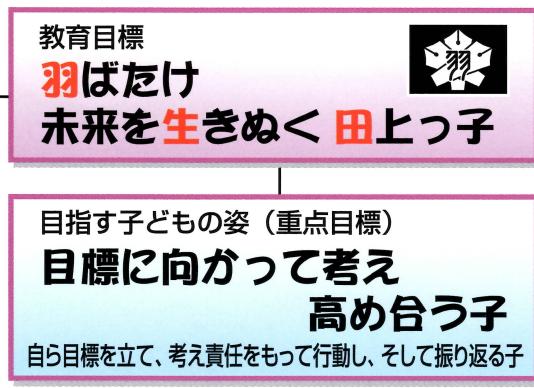
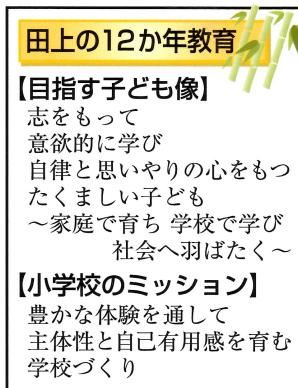


令和5年度 田上町立羽生田小学校グランドデザイン



＜「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善＞ 学習指導要領の趣旨の実現
○言語能力、情報活用能力、問題発見・問題解決能力を高める授業の推進
○論理的思考、批判的思考、創造的思考による思考・表現する場のある授業の推進
○見通しをもって学習し、自らの学びを振り返って次につなげる授業の推進

(羽生田小 HP 「いじめ防止対策基本方針」もご覧ください)

まなび	こここ	からだ
<p>1 成果目標 ○にいがた学びチャレンジ (web 診断問題) の国語と算数の結果が県内平均を上回る。[4~6年生] ○国語と算数のワークテストの学期ごとの平均点が 80 点を超える子が 80% を上回る。[1~3年生]</p> <p>2 教育活動 ○学習内容・方法を自己選択する自己調整を行なながら、粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現したりしようとする姿を具現する授業づくりを行う。</p> <p>3 運営活動 ○公開授業の協議会で、「学習に関する自己調整」について、子どもの姿を基にした具体的な授業分析を行い、授業者が「やってよかった」と思える建設的な協議を行う。</p>	<p>1 成果目標 ○自分で判断し、よりよい行動をする子が 85 % を上回る。</p> <p>2 教育活動 ○主体的に取り組めるように、月のめあてと関連付けた学級のめあてを立てたり、振り返ったりするなどの学級活動を行う。 ○学んだことを活かして、自分の行動について深く考えさせるような道徳の授業を行う。 ○2か月に1回程度、ソーシャルスキルを取り入れた授業を行う。</p> <p>3 運営活動 ○数値化、事前の蓄積、よい行動の記録、道徳の授業の振り返りや感想の蓄積等で子どもの変容を見るようする。 ○学期ごとに目標について職員の共通理解の場をもつとともに、全校児童に指導する場を設ける。 ○意図的に異年齢集団（おりづる班）を組織して、活動が終わったら、互いを認め合う場を設ける。</p>	<p>1 成果目標 ○目標に向かい、進んで運動する子が 85 % を上回る。 ○「たけのこ週間」で「就寝時刻」や「メディア使用の時間」を自分で決め、実践できた子が 75 % を上回る。</p> <p>2 教育活動 ○「体育カード」のめあてを立てて、実践に取り組む。 ○ボール運動で作戦を相談し合ったり、器械運動でお互いの動きをチェックしアドバイスし合ったりして、他者とかかわり合いながら自分やチームの技術を高めようとする。 ○「たけのこ週間」前に睡眠の改善やメディア使用についての指導を行い、めあてを立てて実践に取り組む。</p> <p>3 運営活動 ○「体育カード」を使用する。 ○学年・学級だよりで、「たけのこ週間」の働きかけや結果を知らせる。</p>

